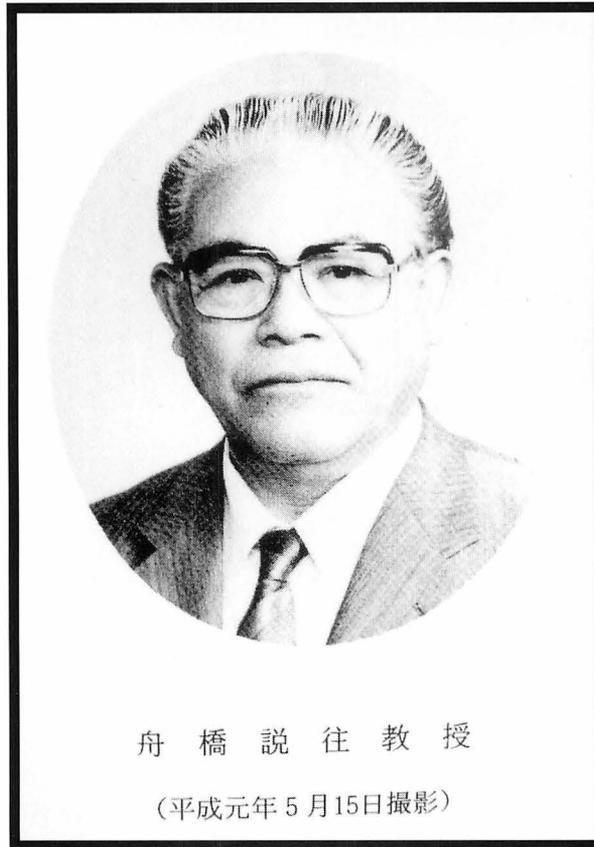


吉田忠生：舟橋説往氏の逝去を悼む

Tadao YOSHIDA: Dr. Setsuo FUNAHASHI (1924-2004) in Memoriam



舟橋説往氏は1924(大正13)年4月12日北海道の生まれで、教職を希望して1944年に北海道帝国大学内札幌臨時教員養成所に入学された。旧制中学校教諭を1年経験の後、1948年北海道大学理学部植物学科に進学し、在学中は秋山茂雄助教授に石狩空沼岳の植物相研究の指導を受け、卒業後、東北区水産研究所に転出した黒木宗尚助手のあとをうけて植物分類学講座の助手に1951年に採用された。それからは山田幸男教授の下で海藻学の研究を開始された。

まず、手掛けたのがカリフォルニア大学のPapenfuss教授から依頼されたウラジオストックの海藻相の研究で、ソ連邦の探検隊員A. Kuznetsovがウラジオストック周辺で1926年から1929年にわたって採集した1560点の海藻標本を精査して、それまで報告がほとんど無かった沿海州の海藻相を明らかにした。

金沢大学の依頼によって始まった能登半島の海藻相の研究では、半島の周辺を精力的に回って採集に努力された。その結果、この地域から34種の海藻を新たに記録された。

この2つの研究を基礎として日本海全体の海藻の地理的分布を議論した論文によって1969年に北海道大学から理学博士の学位を受けることになった。

1953年に発足した日本藻類学会設立準備のために事務をひきうけ、初代の山田会長の下で初期の学会運営を1965年までの間、庶務・会計幹事、「藻類」編集幹事として持ち前の几帳面さを発揮して活躍し、学会の円滑な運営になくはならな

い役割を果たし、今日の活況の基礎を固めた功績は大きい。

1972年に北海道大学助教授を経て高崎経済大学助教授に転出され、1973年からは教授として念願の教育に専念されることになり、一般教育の生物学・生態学・自然科学史の講義を担当された。赴任した時にはまだ大学紛争の盛んな時で、困難な時期を学生委員長、学生部長、一般教育長などとして、大学の運営にも重要な役割をはたされた。

1990年に高崎経済大学を定年退職され、名誉教授の称号を受けた後も非常勤講師として教育に当たるとともに、群馬県において各方面で活躍され、その功績によって2002年には勲三等瑞宝章を授与された。札幌に戻ったあとはあまり健康に恵まれず、2004年5月13日に逝去された。

舟橋氏は温厚実直な性格で、1968年に赴任した新参の筆者を暖かく迎え入れてくださった。話し好きで、誰に対しても話し始めると終わりがないように続くのが常だった。筆者とも夜中まで話し込んで時間を忘れるようなこともしばしばあった。

学生教育を志して学業を終えたのちも、北海道大学在職中は教養部での講義をする機会もなく、不満もあったようであるが、高崎経済大学に移られてからは念願の教養教育に存分に全力を傾注することができたと推察しています。心から御冥福をお祈りします。

(太宰府市朱雀6-13-13)